

経営健全化方針に基づく取組状況（令和2年度）

○法人名

太平山観光開発株式会社

○経営健全化方針を策定した理由

- ・秋田市から借り入れた債務が主な要因で、債務超過団体となっている。
（令和2年度末残高 60,000千円）
- ・経営状況において、平成18年度以降黒字決算であったが、平成29年度は、暖冬少雪によるスキー場収入の減少等により赤字決算となった。

○財政的リスク状況

	平成29年度決算	令和元年度決算	令和2年度決算
債務超過額（千円）	53,901	34,465	5,888
	目標達成年度 （令和4年度）		
	0		

○主な取組状況（令和3年3月現在）

【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休業要請を受けて4月12日から5月10日まで指定管理施設を休業し、施設再開後は、感染症予防対策を実施しながら管理運営を実施。しかし、施設利用者の利用自粛等により、上半期の利用料金収入および自主事業売上が大きく減少した。

減収に伴う損失増加を抑制するため、管理経費の削減と支出抑制を実施したが、減収傾向から推計すると下半期までに事業運営に支障を来すことも想定されたため、秋田市と協議を重ね、上半期の利用料金収入の減少補てんとして指定管理料の増額支援と当該年度分借入金の償還猶予を受けた。

主な取組状況は、次のとおりである。

指定管理事業：感染症予防対策を実施しながら、公共施設を適切に管理運営した。

自主事業：感染症予防対策を実施しながら、飲食・売店等の事業を実施した。

事業共通：管理経費の削減と支出抑制により対前年比で約55百万円削減した。

- ① 人件費を対前年比で約6百万円削減した。
 - ・退職者不補充対応：対前年比で約6百万円削減。
- ② 営業消耗品費を対前年比で約2百万円削減した。
 - ・利用者数の減少等：対前年比で約2百万円削減。
- ③ 施設管理費を対前年比で約17百万円削減した。
 - ・光熱水費を対前年比で約12百万円削減。
- ④ 販売促進費を対前年比で約24百万円削減した。
 - ・広告・催事の中止：対前年比で約24百万円削減。
- ⑤ 一般管理費を対前年比で約6百万円削減。
 - ・福利厚生費、研修費を対前年比で約2百万円削減。

【地方公共団体による財政的リスクへの対処のための対応】

- ・「太平山観光開発(株)の経営健全化に関する検討会議」を開催（令和2年度10回）し、経営状況の把握と課題の解決に向けた方策を協議している。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用者および利用料金収入が大きく減少したため、令和2年度については、上半期の損失補償と感染症対策に必要な人件費や消耗品費を支援するため、指定管理料を増額し対応した。
- ・令和2年度分の貸付金については、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、運転資金の減少により事業運営に支障を来すことから、償還猶予の措置を講じ期限を1年延長した。

○法人の財務状況（貸借対照表から）

（単位：百万円）

	平成29年度決算	令和元年度決算	令和2年度決算
資産総額	82	79	110
（うち現預金）	55	47	88
（うち売上債権）	5	3	1
（うち棚卸資産）	6	4	3
（うち固定資産）	16	25	18
負債総額	136	113	116
（うち当該地方公共団体からの借入金）	84	60	60
純資産総額	▲ 54	▲ 34	▲ 6

（損益計算書から）

（単位：百万円）

	平成29年度決算	令和元年度決算	令和2年度決算
経常収益	619	587	536
経常費用	626	568	493
経常損益	▲ 7	19	43
経常外損益	0	▲ 6	▲ 14
当期純損益	▲ 7	13	29